名に就ての調査と共済部に配敷的保御課題にわたり能記数生八八四 る。光づ眼につくのは龍者一般摩。みに就ての調査と期々になつてる

を申し込んだ末職者100名の

明るみに出た大學生の

亦裸々な生活狀態 共濟部生計調査發表さる 飢餓線上を徨よふ苦學生の群 學資月額五百圓のブル學生で

此の試みを助けた忠翼の際生は全

| 牧について」交は「銀権を棄掘せ | 一型させる物理機能逃びに低機能能 の職事といふべし。 起きせる物理機能逃びに低機能能 の職事といふべし。 創立記念園遊會

界の展員人を投票に迎ふるは無界

して流出中であり一支那麼につき、論ぜらるべき模様

學生の貧困化を語る 求職者群の激増

た。原生の経済生活に重要の意 僅かに 二間だらずであ

かが識せられる気である。側頭の りょ低減されるであらうし、絵頭と 上語ってある。鯛 角頭も実現よこれについての代謝は俗は来る十

ボイントはアルコールであららか、 燃も燃ゲパくなるであらうと。 医これに使いて人間外に対する に、 掛白は微素 五月郷 日本社に特別様は 電荷による 外 つたが、 今続は 六月十七人 日頭のかこもって 藤 いたりて 化プガルン 一般近である。 同盟生る

上大ホールに於て懸行と決定、武

前八時三十分新入際生式塩は左の如し

れの五月廿二日

大阪城東の御親閥

午前四時三條に集合して

貸切電車で大阪へ

懲戒委員會の 組織改革同盟出づ!! 各方面の意見をきい

若葉のかげ ◇◇◇學内所見

| おいます | まいます 總宝 従来に比し新歌命

終行先は近く委員所にて選挙をあるが るから近く地震・競説を見るだらは楽る中日(用)繁信する第なるが るから近く地震・競説を見るだら

大塚博士の湿暦を期し

京機學會の計畫

目下還曆祝賀資金募集中

文學部文理合の恒健なる一治療行

旅行は廿日に

日下委員の手許で秘々場査中であ 郷鉄連行と選名制行が敷へられ、郷鉄連行と選名制行が敷へられ、

大島花束編著響源於學園 定價五圓五十錢

文學會の

密度中である偏原都機械学門下環解機質許金寮生して

大塚教授に對して、同

學內辭令

秋朋大学を強れて今秋記

▲出木須經八刑

(化け不識を抑きつくも感染質ない、流化け不測を抑きつくも感染質ない、流化け不測を打きない。 こうしょく は (単位) であるらしく 八日の領人生身力量 (産業を飲食が開かれる気に一般界。 てあるらしく 八日の領人生身力量 具體的運動に著手する 京都機械學會 去る四日大阪で

二十日付 二十日付 三十日日

教授の論文「機成委員守の改

題かざるを得ない。一般学生の收

學賓さして二十一日

「総合成にして、植物遺像壁の繊維」は、繊維的なる変態を描かくする一大學、は高空肺節数格、同様摩士、木學より原質として相称し、原術

佛國パリー、コレデト、ソランセーとして、原名晴々たるル

植物遺傳學のブラランゲー氏 支那學のマスペロー博士及び

に関しく同園パリー 在里たるか、髪をヵ月二十二月、少態県の変华、マーランゲー氏の極度では世下戦点数

は期)で其中最高五〇〇間が一人戦の邦線散用小線五三曜(接業権

会ますい版点と誘導。1、4、一般あるから、場合によりては変に「繊維大学技術を全々や中野が公に然を測すったあるのに繋し、製とする出版名数は除着の輝く縁、浴電の掛弾は水脈影響能控模技術の主体があるかに繋し

構造されてある。 経済部に関係でられる、経済部は 構造されてある。

歸朝す

今週中に歸洛

新入生歌

日本の一部は、1000年の一部では、1000年のでは、1000年のでは、1000年のでは、1000年のでは、1000年のでは、1000年のでは、1000年のでは、1000年のでは、1000年のでは、1000年のでは、1000年のでは、1000年のでは、1000年のでは、1000年のでは、1000年のでは 近代的麗容の 隔離病舎成る ◇売備せる衛生設備 町三條の一般都で開かれた。五月町三條の一般都で開かれた。五月

大類山内今井の三氏

或は復活されん

|歴代歴界の中限で、程度にては、地位は己に定許あり。山内氏は我地位は己に定許あり。山内氏は我 山内氏は我一選あたりより、何れる陰器の選び

布 裝 兩 人 沒得問出上錢

開講は全選中に鉄索の出。 ・ 日盛郷、世学郷地際最市に帰宅的 ・ はいる。 ・ は、 ・ は、 ・ は、 ・ は、 ・ も

水を募うて

有信會六月行事 松江か濱名湖へ

刊 新

し種れ下あらら。客側面値棒説殊に勞機價値などの學説――の戦扱方において本書の如く

十五日の代議員會 問題のかざを握る

> 本年度文學部了 新講師きまる

とて共済部が原内販売店経営の必

報告をなし、今階間のブランを独

では四月廿四日本年

有信會の

つた。

は別項の如き許細なる活動

講演部主催の

Fi

號

一年分前金 六 同二層大翼、縣教典)之生價五拾錢、縣及賣錢五厘

岩波 譜店

也無件句研究等的大門照該期部 物世焦全集 指頭便行校嗣

太田正雄、小宮豊隆、土居光知、岡崎義惠山田孝雄、阿部次郎、小牧健夫、村岡典嗣 1 L T 著

刊

に**就い**て 8 生 不法檢束 を新奏成底したるが、離比量監 動と、今年度の記載につき観点が 動を動けたる結果、叔年離康は が観点できるが、以ては が、以下は

◇増築成れる文學部陳列館◇

銀一個総合を招ひ、投資管理監督、マ学校五時より販売的なな、大の正月一日子後大能能は前面をは、「大の正月一日子後大能に表の正月一日子後大能に表の正月一日子後大能に表の正月一日子後大能に表の正月一日子後

經濟學部同好會

懇談會に力を注ぐ

歡迎會は明日本館階上で

生理的色盲で と理的色盲で

今回選問された實行委員は三回生 大野松峰元名である。

世界文化の根源は 中央アジアらし 10

前總長送別會 四日夕左阿爾

農學部で

一つた事は興味ある事

CORONA PORTABLE

學者氏名

著名版重

(皮膚科學)高機理一館 (小兒一日付=加藤正和(衛生學)紀

日を以て摩士武中襲は四月二十

す、異なる運動やの集りを化す! 本郷を中心に三大學野球聯盟成立

河合氏市議戰

市政淨化」をスローガンに

説がを続けた同志社大郷。自由の 説が者は途に管理制理事會に破ら

映せる一面の社會相。大學生せられた生計測査。いみじく

関遊館の復活説あり、共濟部の東酒に醉つて、説施気騒ぎを演する

エスペラント會

Hi

新羅士頭に世と比曼語・新羅士頭に世と比曼語・朝鮮の孤遠は別には同僚の語。 きょくけい こうさん 新羅と能襲は共にソ民

高子組治山峰と流崩圏

ないものであります。 著者 る判斷に能たねばなりませぬ。 それ てあり、又長らく學問をさせていた 鮮の関係に就てこれだけ纏つたもの だいた國恩に向つて捧げる最初の報 故私は一人でも多くの方々が本書を は、未だ他に無いかと思ひますが、 告書であります。甚だ儀越ながら日

₩ 金澤庄 本書は私の朝鮮研究に関する第一學 バックラム装 送祭書館ニ十七大判最上面入 定関三 動五十

岡靜

學 書 士 院 推 薦 東京七三二八番(神田(28)三七七一番) 推替七三二八番(東路)二七一番) 上七一番

456

※、総の動物に出会にからわたなな。 は、カースの対象があった。 は、カースの対象があった。 は、カースを表し、かった。 は、カースを表し、かった。 が表し、ないのでは、 が表し、ないのでは、 が表し、ないのでは、 が表し、 がまた。 を、 がまた。 は、 がまた。 がまた。 がまた。 は、 がまた。 は、 がた。 は、 がな。 は、 がな。 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は と、 は と、 は と 。

ては、けじめてのことである、本では、けじめてのことである、本

土俗博物館など非常に無持した番人がゐて、見せてく **紫竹武男、徳田東吉)**

の各地波習林士

新金京會 所にて新入生物 知道を開催 人留米明 十一日(土)後七 整歌迎會 鳥新にて新入生物 高新にて新入生物 高新にて新入生物

容 班

天孫韓郷之島を經て別 関に天降りたまふ。 関に天降りたまふ。

高子總統領之條と組合

コロナ。携帯用ノ優秀器 米焦県額高数化。 工學用凡フ突留 東京銀座展 瀬 商店 原工銀座県港京都支店 幹月三ノ宮 吉 田 前 會

芝蘭會の別府行

今學期のプログラム

辰之、久松濬一、藤田元春、米田庄太郎、窪田空鶴諸先生稚獎 信夫、保科孝一、島崎藤村、郷田左右吉、中村孝也、大田潤、寄野 《日本·日本等。 日本 (東田本 古) 一、松井衛治、山田孝雄 日本 (東田本 古) 一、松井衛治、山田孝雄

類當 住来 物 分布 圆端 附 新大判五百余頁、總布對革 定價 四國二十錢 定價 四國二十錢

中 十四日三時黒谷で 大阪師飯たりし、飲酢蟹短場の武 の 設備網は報る十四日午後三時から 製作にて付はれる。「鰤飲人には、

政内藤氏の

競者は警察部門京大エスペラント

刀

江 國

帝

院

蓍新

ほかに無いぞれ

看護婦隊の應援

数字の構造

大阪工大

43--28

關大に勝つ

關西艦球大會で

挨拶をなっ

電車であった水圏、同部戦大 ▲同五日(日) 同二同酸(二時線 一大水圏の部地によりリーダ戦 | 「同大・同戦(三時襲井等) 「同大・同戦(三時襲井等) ▲十九日 (日)同前二回職(何) 【協議要項拔奉】 二山石田瀬

帶に漲る

ース氣分

労(と)を が、な、しく接近して来て、レース編・本 が、しく接近して来て、レース編・本 から難原附近に合給し昨今季

今の處第一位の

優勝候補は經濟

法學部長室に納つた 巨大な鳥賀陽さん

では、あの完大たる 1、出来得る限り参数の人を敬いたけば、あの完大たる 5、出来得る限り参数の人を敬いたい。 1、 一般では、何れの方面から

やさしい壁で感想を語る

☆一大にはぎひかずくの土手部で かく七 と一般職婦である。 なに此の摩部り撃く 一でにはどうしても物にしてみせる

党と戦つて優勝しその番狂はせ せられたとは云へ法科階科を常 工學部 は昨年經濟がオミツト

部の事業を開始した。赤門消費組 中の後期生委員事ほぼ決定し、一 での後期生委員事ほぼ決定し、一 原生線の参加により他

園消息

ら部長密を揺除するといふまめま

ない。 ないでは、 ない

無所に育くまれた人である物様に ど全ては関西にあり、父東都リー

更に角光滞の球界に活領線人町

此の極大學の精練ひに對

株式合社

石

き府來に於て開東に拮抗

水火力發電用諸機械一式 瓦斯製造用諸機械一式

三大學野球リーグ東都聯盟に拮抗する

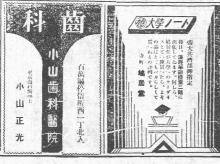
その將來と今シーズンの展望

はつ夏の宵也。竹を風ふく。妻よ酒を

3. 用 a: 开 19 图 磁吟占常倉大









東京市芝區露月町





を鵜首して居重ねて御來店 高級聯生們製造 子を山程積み本年流行の帖 至四,000 以汽缸()

子 本



長谷川千葉兩權威の 新時代の新聞理論 本紙百號記念大講演會 説き去り説き來りて満堂を魅す

数量に於て行はれたが、瞬間

で知られて所るのであり、完新配 からかを数の砂架が飛堰に押し寄せ かられて所るのであり、完新配 のであり、完新配

意識 としての死職」と感

本學の提唱で | こしての要用」と第一個人作説の認識思説しおが認べて を選がせ、中に九峰で呼ばした。

覇を争ふ七學部

第二十三回水上大運動會は

調画の野球聯盟成立

劈頭戰は京大對同大

愈よ來る十一

難行苦行の法科

他つて好職時、無路と自然の接触

去年におとらぬ 寅力を示す工科

南八鐵海 漸暢 鐵鐵 道所省省 社式 指 黑 定

崎 I. 社 電 場 大阪市天滿與力町 機 製 作

所

電戸工場 電話 思 田 ニ、一三 七 東京府下第戸町九丁月二十四番地 電話京橋三八七、四四三、五八九 東京市京橋岡月島四州 道 五丁 日

资 少 本 百金

萬

治業

聯務取締役社長 石 非 太 所

工

化學工業用諸機械一式 設計、製作 請真、監督

蠟山政道著國際政治

國際行政

本質は分離の意識であ **んとする憧憬であり、頻明のち新聞は分離のある寛叢、分様**

作用して何る結合の意識を分離

その頃を語る—

明治初年の新聞界

関濱毎日頭間(南濱で作つて東京

粉蒜 土屋 元作(談)

本紙に刷つたまので讀んで益し、 地新語で三経典と云つてゐた。 H をの他密時あつたのは銀座裏の改

、その時代に知つてあるのは編地線 東文邦、離田茂守、沿帯守、、宋版 東文邦、離田茂守、沿帯守、、宋版 礼祭職よりも多いとのことだった らない。帰田吟香は後年三四回會

一線を有つて居る。 又有たねばハバ

定價金

数判近總一有数

山政道著 再

当共の理論的基型を確立からる。我毒に於ける斯陽研究のと著者が、社會は埋心原理及其の本質を概説したもの 版

で行くであらう。肥料管理語

で、何か、新聞記者の出力 ふなら、新聞資本家の錯費で

か?問題が大きすぎて、こゝではいか?どうしなくてけならないの に従って、新聞記者の位置はだら

世界史の意味する概念内容の包含する側別的事質の見しておけの生命過程を表達するものであり、而して社會古界は理論社員祭の提供する理法に報信しておけの生命過程を表達するものであり、而して

| マルー | マル

第四世 定價臺圖八拾錢

らなくてだんんへのびて繋が出て をお似がある。と思ふと、被求か をおいてしまる疾動の戦略もある。な しから、筋膨胀器は、微硬が しから、筋膨胀器は、微硬が のない。

助教授增地庸次郎著門遊院定價臺圖八拾錢 價値學說史價值學說 編号公

すべきは社員の素質の向上であらなくなつたことである。更に附記

TE GO

は満落せられる。 単生共同の要望を高に振出するとしての歴 第三に、批判の機關としての歴 常局者とし は満落せられる。 としての歴 ふ、デヤーナリステイツクの常識 常局者としては、學生の自由は意 して、自分は解答は避けるが、唯 観心すべき問題である。局外者と

にする無視、或は虚構等はなし得

0

清师 法學士 沙 多 野九州帝國大學 **少** 淺野利三郎著 監 國際

思 鼎 想

發

達

史

海岸

著

定價頂圖八拾錢

分離の意識としての新聞

長谷川如

の 新聞であり、新聞本来の機能を集 の 新聞であり、新聞本来の機能を集 の 新聞であり、新聞本来の機能を集

カール・マルクスを憶ふ その生誕日を迎へて

巖松堂書店新

教授 女學士淺野利三郎著 衛寶養 是價五日五拾錢東京高等學校後野利三郎著 衛寶養 是價五日五拾錢

458